

いつまでもいきいきと

9月は敬老月間です。長年にわたり家庭のため、また地域や社会のために尽くしてこられた高齢者の方を敬愛し、その長寿をお祝いしましょう。

日野町は、町の人口に占める65歳以上の高齢者の割合が24%を超え、滋賀県内でも高齢化率の高い町となっています。だれもが「いつまでもいきいきと暮らしていくために、私たちには何ができるのか、この敬老月間を機に今一度、考えてみましょう。」

敬老月間中、町や各地区では

各地区・各地域において趣向を凝らした催しが行われます。

また、長寿のお祝いとして、90歳と95歳以上の方のお宅を町と社会福祉協議会が訪問しています。

元気に活躍されています

各町の老人クラブでは、年間を通じ、地域社会活動として、健康・友愛・奉仕活動などを実施されています。老人クラブ連合会の活動としても、毎年9月20日に県下一斉で社会奉仕活動を実施されるほか、豊富な知識と経験を深めるための「シルバー大学」などの事業も実施します。

また、公益社団法人日野町シルバー人材センターでは、これまでの人生で培われた知識や技術を持つ多くの高齢者が活躍されています。このたび、積極的な社会参加や地域貢献が評価され、全国シルバー人材センター事業協会が主催する式典において、日野町シルバー人材センターが優良センターとして表彰を受けられました。現在の会員は310名。町内の企業や家庭からの依頼を受け、さまざまな仕事をされています。元気な高齢者が、お困りの高齢者を支えるという助け合いの心が日野町シルバー人材センターを支えています。



▲作業をされるシルバー人材センターの会員の方々

世代を越えた交流で元気をもらえる

川島さん宅では、毎年農村民泊の受け入れをされており、今年度もすでに3件の受け入れに協力いただいています。最初に受け入れの話がきた時は「私たちがみたいな老人が」と思っただけで断ろうと考えていたそうです。しかし、歳を重ねてからも何かに挑戦してみたい、社会へ恩返しをしたいという思いから、受け入れを始められました。

民泊に子どもたちが来てくれると本当の孫ができたみたいで笑顔をもらっているという川島さん夫妻。そんな「孫」たちと竹を切りに行ったり、竹とんぼや竹のコップと一緒につくったり、おもちゃをついたりするそうです。「農村民泊を通して、世代を越えた交流によってお互いがよい刺激をもらい、勉強ができています」とお二人。その中でも、お互いがお互いを知る努力をすることが大事なことであると感じられています。その向上心・探求心が川島さん夫妻のいきいきとした活動の源となっているのではないのでしょうか。

かわしま
川島さん夫妻
(仁本木)

